

厚生労働科研費補助金（難治性疾患政策研究事業）
総合研究報告書

中枢性摂食異常症および中枢神経感作病態を呈する疾患群の脳科学的な病態解明と、
エビデンスに基づく患者ケア法の開発

研究要旨

本研究の目的は、中枢性摂食異常症および中枢神経感作異常をきたす疾患群に対して、脳科学的に治療構造を解明し、エビデンスに基づく患者ケア法を開発することである。

本研究事業では、摂食障害治療支援センター事業および摂食障害研究班（AMED 安藤班：摂食障害の治療支援ネットワークの指針と簡易治療プログラムの開発）や摂食障害基幹センター事業と連携し、中枢神経感作病態を呈する疾患群の脳科学的な病態を解明する。更に、中枢神経感作病態の修正が期待できる治療プログラムを実施し、治療効果の脳科学的なエビデンスを創出し、中枢神経感作病態という観点に着目した患者ケアの向上を実現する。

具体的には、摂食障害および難治性の心身症に対して、疾患横断的な脳画像レジストリを構築する。更に、これら疾患に対して、海外で有効性が実証されている治療プログラムを実施し、臨床症状の改善の背景に存在する、疾患特異的な刺激に対する非特異的な中枢神経系の過剰反応及び減感作の修正を実証する。

研究代表者・分担者・協力者

国立精神・神経医療研究センター
精神保健研究所 行動医学研究部
室長 関口敦（研究代表者）
室長 安藤哲也（研究分担者）
研究員 小原千郷（研究協力者）
研究員 河西ひとみ（研究協力者）
研究員 船場美佐子（研究協力者）
研究員 菅原彩子（研究協力者）
研究員 富田吉敏（研究協力者）

東北大学 大学院医学系研究科
教授 福土審（研究分担者）
准教授 金澤素（研究協力者）
助教 遠藤由香（研究協力者）
助教 鹿野理子（研究協力者）
助教 佐藤康弘（研究協力者）
助教 庄司知隆（研究協力者）
助教 村椿智彦（研究協力者）
心理士 阿部麻衣（研究協力者）
大学院生 山田晶子（研究協力者）

千葉大学 大学院医学研究院精神医学
特任教授 中里道子（研究分担者）
教授 伊豫雅臣（研究協力者）
特任准教授 橋本佐（研究協力者）
千葉大学 子どものこころの発達教育研究センター
教授 平野好幸（研究協力者）
千葉大学 社会精神保健教育研究センター
講師 金原信久（研究協力者）

東京大学 医学部附属病院
准教授 吉内一浩（研究分担者）
特任講師 大谷真（研究協力者）
医師 堀江武（研究協力者）
医師 山崎允宏（研究協力者）
医師 宮本せら紀（研究協力者）
医師 野原伸展（研究協力者）
医師 山中結加里（研究協力者）
医師 米田良（研究協力者）
医師 樋田紫子（研究協力者）
医師 小林晃（研究協力者）
心理士 松岡美樹子（研究協力者）

国立国際医療研究センター病院 心療内科
診療科長 菊地裕絵（研究分担者）
心理士 倉科志穂（研究協力者）
心理士 木村真弓（研究協力者）
心理士 北島智子（研究協力者）

国立国際医療研究センター国府台病院 心療内科
診療科長 河合啓介（研究分担者）
医師 田村奈穂（研究協力者）
医師 細川真理子（研究協力者）
医師 村上匡史（研究協力者）
医師 権藤元治（研究協力者）
医師 戸田健太（研究協力者）
心理士 庄子雅保（研究協力者）

九州大学 大学院医学研究院
教授 須藤信行（研究分担者）
講師 吉原一文（研究協力者）
講師 高倉修（研究協力者）
助教 波多伴和（研究協力者）
医員 戸田健太（研究協力者）
共同研究員 権藤元治（研究協力者）
大学院生 麻生千恵（研究協力者）

産業医科大学 神経内科
講師 兒玉直樹（研究分担者）
助教 高橋昌稔（研究協力者）

筑波大学 医学医療系
准教授 丸尾和司（研究分担者）

A. 研究目的

本研究の目的は、中枢性摂食異常症および中枢神経感作異常をきたす疾患群に対して、脳科学的に治療構造を解明し、エビデンスに基づく患者ケア法を開発することである。

本研究事業では、摂食障害治療支援センター事業および摂食障害研究班（AMED 安藤班：摂食障害の治療支援ネットワークの指針と簡易治療プログラムの開発）や摂食障害基幹センター事業と連携し、中枢神経感作病態を呈する疾患群の脳科学的な病態を解明する。更に、中枢神経感作病態の修正が期待できる治療プログラムを実施し、治療効果の脳科学的なエビデンスを創出し、中枢神経感作病態という観点に着目した患者ケアの向上を実現する。

具体的には、摂食障害および心身症に対して、疾患横断的な脳画像レジストリを構築する。更に、これら疾患に対して、海外で有効性が実証されている治療プログラムを実施し、臨床症状の改善の背景に存在する、疾患特異的な刺激に対する非特異的な中枢神経系の過剰反応及び減感作の修正を実証する。

B. 研究方法

本研究課題では、以下の4つの研究課題を多施設共同研究として実施する。

①摂食障害の治療プログラムの効果検証

神経性過食症を対象に、中枢神経感作病態としての食や体型に対する過剰反応を、定期的な食事習慣の導入により減感作していく治療構造を持つ心理療法である、CBT-E（Enhanced Cognitive Behavioral Therapy）の効果検証のためにランダム化比較試験（RCT）を実施する。

②心身症の治療プログラムの効果検証

代表的な心身症である過敏性腸症候群（IBS）を対象に、中枢神経感作病態としての内受容感覚に対する過剰反応を、内受容感覚曝露により減感作

していくという治療構造を持つ心理療法である、内受容感覚曝露療法（CBT-IE: Interoceptive Exposure Cognitive Behavioral Therapy）の効果検証のためにRCTを実施する。

上記2研究課題に共通する項目として、CBT-E/IEを普及させるために、実施者の教育・研修システムの確立が必要であり、わが国で実施可能な方法を検証する。

③疾患横断的脳画像レジストリ研究

摂食障害患者と、心身症患者の疾患横断的な脳画像レジストリを構築する。脳MR画像は、3テスラMRI装置が利用できる各施設において、可能な限り撮像シーケンスを統一し、安静時fMRI、拡散テンソル強調画像、T1強調画像による撮像を行う。同時に質問紙や認知課題での心理評価・症状評価を行なう。特に、中枢神経感作病態の指標として、食・体型等の刺激に対する反応性や内受容感覚尺度を評価し、研究会等を開催し検討する。中枢神経感作病態の指標に特異的な脳構造・脳機能変化を重回帰分析により抽出し、中枢神経感作病態の神経基盤を明らかにする。

④脳画像データ統合による解析研究

各施設で収集した脳画像データをNCNPに集約し、画像の前処理及び個人内解析を半自動的に実行できる解析パイプラインを構築、分担施設でも解析を実施するためのデータダウンロードシステムを構築し、解析用PCを導入して横断的な解析研究を行い中枢感作病態の脳内基盤を検証する。研究①②の治療介入が開始された後には、試験群/対照群に対して、介入前/介入終了後（3か月）において、脳画像・認知心理機能評価を行う。縦断データがそろい次第、主要アウトカムの改善と、中枢神経感作病態の指標および関連する脳領域との関連を検証し、臨床症状の改善の背景にある中枢神経感作病態の改善を脳科学的に実証する。

（倫理面への配慮）

本研究は、ヘルシンキ宣言に則り、代表研究機関および各共同研究機関の倫理委員会の承認を受けて行うものであり、また臨床研究に関しては「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」を遵守する。研究者それぞれの所属する機関において、該当する倫理指針に従った計画書を提出し、審査を受ける。人を対象とする研究に従事する者は、全員、倫理講習を受講する。

治療プログラム効果検証研究として、ランダム化比較試験を行うので、研究に参加する被験者は無作為に試験群、対照群に振り分けられることの説明を行う。試験群で行う治療プログラムは、本邦ではまだ効果が実証されておらず、本試験において効果検証をするものであり、必ずしも良い治療であるとは限らないこと、対照群に割り振られた場合も通常の治療が受けられることを説明する。

また、ヒトを対象としたMRI実験を行うために、MRIを撮像する各施設の倫理委員会の承認も得るものとする。MRIの安全性に関しては、米国FDAの基準に準拠した撮像方法を用いているため、人体に害を与える影響はない。

被験者自身に実験の目的と安全性に関して口頭および書面により説明を行い、書面による同意書を得るものとする。実験参加を拒否する権利やプライバシー保護の原則についても説明を行う。

被験者から得られるデータはすべて匿名化して取り扱い、個人を特定可能な書類（同意書など）は、施錠可能な保管庫で厳重に保管する。

C. 研究結果

3年間の研究事業における結果を、研究課題ごとに提示する。

研究①において、治療研究のプロトコルをブラッシュアップし、プロトコル論文を出版した。また、分担施設での倫理申請も完了し、割付と症例報告（CRF）システムの設計、入力マニュアル手順書の作成、事務マニュアルの作成、募集広告の作成も完了し、介入の開始へと展開している。

研究②においても同様に、治療研究のプロトコルをブラッシュアップし、プロトコル論文を出版した。また、分担施設での倫理申請を完了し、割付と症例報告（CRF）システムの設計、入力マニュアル手順書の作成、事務マニュアルの作成、募集広告の作成も完了し、介入の開始へと展開している。

研究③において、各施設での摂食障害患者および健常対照群の脳画像検査を継続した。3年間で各施設における総数は、摂食障害患者のベースライン 90 例、フォローアップ 38 例、健常群ベースライン 120 例、フォローアップ 45 例の脳 MR 画像および心理検査データが収集できた。IBS 患者に関しては、従来通り治療前後の縦断研究を継続し、NCNP において 13 例の患者群を対象として MRI 検査を実施しており、5 例の治療介入前の検査を実施済みである。

研究④として、多施設のデータを一元的に解析できる解析パイプラインとして、T1 強調画像および安静時脳活動の解析プログラムを構築した。

また、分担施設において施設単位でのデータ解析も実施した。分担施設（東北大学）での解析では、摂食障害患者において、楔部、楔前部、内側前頭前野、上側頭回、外側後頭野、弁蓋部、上縁回、眼窩前頭野、上頭頂小葉などで患者の皮質厚が有意に低下しており、楔前部の皮質厚と自尊感情との関連性に交互作用が認められた。また、左前頭前野眼窩部と左内側前頭前野の体積減少が認められた。更に、摂食障害患者において、左半球の紡錘状回、峡部帯状回、右半球の紡錘状回、眼窩前頭野で皮質厚が有意に低下していた。また、別施設（産業医科大学）では機械学習を用いた解

析に着手した。従来解析では、左下前頭回三角部と左眼窩前頭皮質の皮質容積量が低下しており、患者群において強迫性尺度との相関を認めた。更に、機械学習アルゴリズムを利用した解析において、両側下前頭回三角部（Model Coefficients lt.: -0.28, rt.: -0.05）、左楔前部（Model Coefficients -0.22）、左上後頭溝・横後頭溝（Model Coefficients -1.1）、左中前頭回（外背側前頭前野）（Model Coefficients -0.07）などの領域が、摂食障害群を予測する部位として検出された。

また、3年目には東北大学において縦断データを用いた予備的な解析を行い、左上側頭回、左下頭頂小葉、左中前頭回、左縁上回、左紡錘状回、右頭皮質、右眼窩前頭回で、健常者と比較して AN 患者の皮質厚変化率が有意な増加を示した。これら領域の皮質厚増加は、治療介入の効果を反映している可能性があると考えている。今後多施設データを集積して解析することにより、より信頼性の高い結果がもたらされるものと期待される。

IBS 患者の予備的な脳画像解析において、IBS の重症度スコアと、内部感覚との関連が指摘されている右前島皮質の灰白質量との正相関が認められている。

成果発表の場として関連学会（第 23 回日本摂食障害学会学術集会、第 2 回日本心身医学関連学会合同集会）でシンポジウムを実施し、専門医・非専門医、更に小児を対象とした治療を行っている医療者に対して治療プログラムや中枢感作病態の概念の普及・啓発を行った。特に、日本心身医学会では、同じ横断的政策班である平田班との合同シンポジウムを開催し、中枢神経感作病態の類縁概念として、内受容感覚をターゲットとした研究の必要性について議論し、中枢神経感作病態の概念について普及・啓発ができた。また、研究成果報告書のリンクを、摂食障害全国基幹センターのホームページに公開している。

D. 考察

2 件のランダム化比較試験に関しては、割付システムの構築、手順書、事務マニュアルの作成、広告募集の実施などへと展開し、介入が開始でき、3年目にプロトコル論文の出版へも結び付けている。ただし、当初目標としていた CBT-E/IE の治療効果の解明は、目標症例数（各単群 45 例、70 例の完遂）への道のりは遠く、中長期的な研究戦略の再構成が必要であると考えている。一方で、中枢神経感作病態の解明には、CBT-E/IE 単群における治療反応性個人差をターゲットとした解析により実現可能と考えており、ランダム化比較試験の目標症例数の収集に先行して解析を行うことで、本研究事業における当初の目的を達成できると見込んでいる。

脳画像レジストリ研究としては、中枢性摂食異常症の脳画像収集に注力をした。ED および IBS 治療研究（『摂食障害の治療プログラムの効果検証に関する研究』および『心身症の治療プログラムの効果検証に関する研究』）におけるリクルートが予定通りに進まない状況を鑑み、ED 患者に関しては治療研究には参加していない症例の脳画像データレジストリの構築を優先する方針に切り替えた。IBS に関しても予定通りにリクルートは進んでいない状況ではあるが、ED 患者に比して治療研究へのエントリーが進んでいたこともあり、研究期間終了後もデータ収集を稀有属することにより、治療前後の縦断データ 20 例の収集は達成できるとの見通しであり、今後も継続的に縦断データを収集する方針としている。更に、多施設データを一元的な管理体制を構築し、解析研究に活用できる体制を整えていく方針としている。

脳画像解析研究においては、脳形態画像を中心に予備的解析を行っている。現時点では少数例での検討ではあるが、有意差をもって摂食障害の病態と深く関わりとされる領域の障害を示唆される知見が得られており、縦断データの解析でも同様の傾向を認めている。今後さらに症例数を増やすことによってさらに有意な結果がえられるものと考えられる。

E. 結論

本年度は、中枢神経感作病態の検証に必要な実験系として、ランダム化比較試験の研究計画を遂行し、介入・検証の実施マニュアルなどを整備し、介入が開始できた。また、脳画像共有・解析システムの構築、予備的な解析も実施できた。

研究期間終了後も、ランダム化比較試験を継続し、中枢神経感作病態解明のために、CBT-E/IE 単群における治療反応性個人差をターゲットとした解析を実施する方針、ランダム化比較試験の目標症例数の収集に先行して解析を行うことで、本研究事業における当初の目的を達成できると考えている。

本研究の終了後もデータベースを活用できる体制を維持し、縦断的なデータ収集も継続し更なるデータベースの充実を図る方針である。また横断的政策班との連携を継続し、中枢神経感作病態の類縁概念として、内受容感覚をターゲットとした研究の必要性について議論し、中枢神経感作病態の概念について普及・啓発を続けていきたい。

F. 健康危険情報

該当なし

G. 研究発表

1. 論文発表

【2017 年度】

- 1) Matsumoto J, Hirano Y, Hashimoto K, Ishima T, Kanahara N, Niitsu T, Shiina A, Hashimoto T, Sato Y, Yokote K, Murano S, Kimura H, Hosoda Y, Shimizu E, Iyo M, Nakazato M. Altered serum level of matrix metalloproteinase-9 and its association with decision-making in eating disorders. *Psychiatry Clin Neurosci*. 2017 Feb;71(2):124-134. doi: 10.1111/pcn.12490. Epub 2017 Jan 14.
- 2) Setsu R, Hirano Y, Tokunaga M, Takahashi T, Numata N, Matsumoto K, Masuda Y, Matsuzawa D, Iyo M, Shimizu E, Nakazato M. Increased subjective distaste and altered insula activity to umami tastants in patients with bulimia nervosa. *Front Psychiatry*. 2017;8:172.
- 3) Hiraide M, Harashima S, Yoneda R, Otani M, Kayano M, Yoshuchi K. Longitudinal course of eating disorders after transsexual treatment: a report of two cases. *BioPsychoSoc Med* 11:32, 2017
- 4) Moriya J, Kayano M, Yoshiuchi K. Impact of a new medical network system on the efficiency of treatment for eating disorders in Japan: a retrospective observational study. *BioPsychoSoc Med* 11:27, 2017
- 5) 三村將, 須藤信行, 西園マハ文, 作田亮一. 摂食障害の診断、診療、支援 (座談会/特集). *日本医師会雑誌* 146(8): 1517-1528, 2017.
- 6) 高倉修, 鈴山千恵, 山下真, 波多伴和, 須藤信行. ストレス関連疾患としての摂食障害 ストレス関連疾患としての摂食障害 病態と治療. *心身医学* 57(8): 797-804, 2017.
- 7) 権藤元治, 河合啓介, 守口善也, 樋渡昭雄, 高倉 修, 吉原一文, 森田千尋, 山下 真, 江藤紗奈美, 須藤信行. ニューロイメージング心身医学の新展開: 心身医学における安静時機能的 MRI 研究. *心身医学* 57(7): 724-729, 2017.
- 8) 中里道子, 公家里依. 児童期・思春期のやせ—神経性やせ症と回避・制限性食物摂取症—特

集—鑑別しにくい精神症状や行動障害をどう
診分けるか—,精神科治療学,
32(1),111-116,2017.

- 9) 米田良、平出麻衣子、宮本せら紀、木田史彦、
原島沙季、堀江武、松岡美樹子、稲田修士、
大谷真、瀧本禎之、吉内一浩. 神経性やせ症の
治療に院内学級を利用した2例. 日本心療内
科学会誌 21(4): 161-165, 2017
- 10) 吉内一浩、宮本せら紀、平出麻衣子. 総説 摂
食障害に対する身体管理と入院治療. 日本医
師会雑誌 146(8): 1567-1571, 2017
- 11) 榎藤元治、河合啓介、守口善也、樋渡昭雄、
高倉 修、吉原一文、森田千尋、山下 真、
江藤紗奈美、須藤信行. ニューロイメージン
グ心身医学の新展開：心身医学における安静
時機能的 MRI 研究. 心身医学 57(7): 724-729,
2017.
- 12) 兒玉 直樹、高橋 昌稔. 【目に見えるストレス：
ニューロイメージング心身医学の新展開】脳
画像と機械学習. 心身医学, 57 巻 7 号, 730-735,
2017 年

【2018 年度】

- 1) Kodama N, Moriguchi Y, Takeda A, Maeda M,
Ando T, Kikuchi H, Gondo M, Adachi H, Komaki
G. Neural correlates of body comparison and
weight estimation in weight-recovered anorexia
nervosa: a functional magnetic resonance imaging
study. Biopsychosoc Med. 12:15, 2018 年
- 2) Setsu R, Asano K, Numata N, Tanaka M, Ibuki H,
Yamamoto T, Uragami R, Matsumoto J, Hirano Y,
Iyo M, Shimizu E, Nakazato M. A single-arm pilot
study of guided self-help treatment based
cognitive behavioral therapy for bulimia nervosa
in Japanese clinical settings. BMC Res Notes.
2018 Apr 25;11(1):257.
- 3) Kano M, Dupont P, Aziz Q, Fukudo S.
Understanding neurogastroenterology from
neuroimaging perspective: a comprehensive
review of functional and structural brain imaging

in functional gastrointestinal disorders. J
Neurogastroenterol Motil 24: 512-527, 2018.

- 4) Tanaka Y, Kanazawa M, Palsson OS, Van Tilburg
MA, Gangarosa LM, Fukudo S, Rossman
DA, Whitehead WE. Increased postprandial
colonic motility and autonomic nervous system
activity in patients with irritable bowel syndrome:
a prospective study. J Neurogastroenterol Motil
24: 1-9, 2018.
- 5) 河西ひとみ, 船場美佐子, 富田吉敏, 藤井靖,
関口敦, 安藤哲也. 腸管ガスに関連する症状を
主訴とする病態と治療法の研究の動向—過敏
性腸症候群・呑気症・自己臭症の視点から—
心身医学 58(6):488-497, 2018.
- 6) 安藤哲也. 摂食障害と地域連携 特集—摂食
障害の今日的理解と治療—. 精神科治療学.
58(12): 1455-1461, 2018.
- 7) 安藤哲也. 摂食障害におけるリカバリー.
精神保健研究 2018 ; 64 : 41-49
- 8) 高倉修. 摂食障害の時間的変遷—長期経過の
中で心身に何が起こるのか—特集—摂食障害
の今日的理解と治療—. 精神科治療学.
33(11) :1347-1351, 2018.
- 9) 庄子雅保 河合啓介最近の心療内科での心理
療法「第3世代の行動療法である
mindfulness-based stress reduction (MBSS)の有
用性」日本医事新報 No 4925 55 2018
- 10) 河合啓介 摂食障害の今日的理解と治療□摂食
障害の生物学的メカニズムの今日的理解—内
分泌など生理的機能を中心に—精神科治療学
Vol33 1305-1311 2018
- 11) 清家かおる, 中里道子, 花澤寿, 石川慎一, 河
邊憲太郎, 堀内史枝, 高宮静男. 学校における
摂食障害の児童・生徒の早期発見と支援のた
めのアンケート調査に関する研究—4 県の養
護教諭を対象とした質問紙調査より—, 児童
青年精神医学とその近接領域,
59(4),461-473,2018.
- 12) 中里道子. 「精神疾患の背景にあるトラウマに
気づく」. 特集号 摂食障害とトラウマ. 臨床

精神医学, 47 号 7 卷, p.789-796, 2018 年 7 月, アークメディア.

- 13) 中里道子, 「摂食障害の動機づけ—モーズレイ式成人の神経性やせ症治療(MANTRA)より」. 特集 摂食障害の今日的な理解と治療□, 精神科治療学, vol.33, no.22, p.1393-1398, 2018 年 12 月, 星和書店.
- 14) 原島沙季, 吉内一浩. 摂食障害の今日的臨床像と診断—心療内科の観点から—. 精神科治療学 33(11): 1279-1283, 2018
- 15) 山中結加里, 橋本昌幸, 吉内一浩. 摂食障害のアウトカム測定 (Outcome measures of eating disorders.). 精神科 32(5): 432-436, 2018
- 16) 権藤元治, 守口善也. 神経性やせ症の default mode network. Clinical Neuroscience, 37(2):217-219, 2019.

【2019 年度】

- 1) Hata T, Miyata N, Takakura S, et al. The Gut Microbiome Derived From Anorexia Nervosa Patients Impairs Weight Gain and Behavioral Performance in Female Mice. Endocrinology. 160(10):2441–2452, 2019.
- 2) Takakura S, Aso CS, Toda K, Hata T, Yamashita M, Sudo N. Physical and psychological aspects of anorexia nervosa based on duration of illness: a cross-sectional study. Biopsychosoc Med. 13:32. Published 2019 Dec 23. doi:10.1186/s13030-019-0173-0
- 3) Numata N, Hirano Y, Sutoh C, Matsuzawa D, Takeda K, Setsu R, Shimizu E, Nakazato M. Hemodynamic responses in prefrontal cortex and personality characteristics in patients with bulimic disorders: a near-infrared spectroscopy study. Eat Weight Disord. 2020 Feb;25(1):59-67. doi: 10.1007/s40519-018-0500-7. Epub 2018 Mar 20.
- 4) Yamazaki T, Inada S, Yoshiuchi K. Body mass index cut-off point associated with refeeding hypophosphatemia in adults with eating disorders. Int J Eat Disord 52(11):1322-1325, 2019
- 5) Koishizawa M, Kurihara K, Kita S, Takagi S, Omori M, Nakamoto C, Yoshiuchi K, Kamibeppu K. Peer support and hope in mothers of children with eating disorders. Asian Journal of Family Therapy 3:63-79, 2019
- 6) Hunna J. Watson, , , , Tetsuya Ando, , , and Cynthia M. Bulik Genome-wide association study identifies eight risk loci and implicates metabo-psychiatric origins for anorexia nervosa, Nature genetics 51(8) 1207 - 1214 2019
- 7) Munn-Chernoff MA,,, Ando T,,, and Agrawal A. Shared genetic risk between eating disorder- and substance-use-related phenotypes: evidence from genome-wide association studies Addict Biol, e12280, 2020
- 8) Ohara C, Sekiguchi A, Takakura S, Endo Y, Tamura N, Kikuchi H, Maruo K, Sugawara N, Hatano K, Kawanishi H, Funaba M, Sugawara A, Nohara N, Kawai K, Fukudo S, Sudo N, Cooper Z, Yoshiuchi K, Ando T. Effectiveness of enhanced cognitive behavior therapy for bulimia nervosa in Japan: a randomized controlled trial protocol. BioPsychoSocial Medicine 14:2, 2020
- 9) Kawanishi H, Sekiguchi A., Funaba M. et al. Cognitive behavioral therapy with interoceptive exposure and complementary video materials for irritable bowel syndrome (IBS): protocol for a multicenter randomized controlled trial in Japan. BioPsychoSocial Med 13, 14, 2019.
- 10) Kano M, Oudenhove LV, Dupont P, Wager TD, Fukudo S. Imaging brain mechanisms of functional somatic syndromes: potential as a biomarker? Tohoku J Exp Med 250(3):137-152, 2020.
- 11) 安藤哲也 摂食障害患者の医学・心理社会的要因の研究と診療体制, 公衆衛生 (83) 10、724-730, 2019
- 12) 小原千郷, 摂食障害の理解の促進と啓発の現状と課題 : 日本摂食障害協会(JAED)の取り組みから (特集 摂食障害の理解と対応)、公衆衛

生、83 (10) ,762-766, 2019

- 13) 小原千郷, トレーニング指導者に必要な摂食障害の知識 摂食障害の認知行動療法から学ぶ①, 食生活を整える, JATI EXPRESS, 74, 40, 42,2019
- 14) 野原伸展、稲田修士、大谷 真、吉内一浩. 2018年、第 59 回日本心身医学会総会ならびに学術講演会(名古屋)自主シンポジウム:日常生活というブラックボックスを明らかにする EMI, JITAIによる新たな摂食障害治療の考察と展望. 心身医学 59(7): 634-641, 2019
- 15) 古賀愛子、山家典子、吉内一浩. DSM-5 の過食性障害とは何か? 精神科 35:223-228, 2019
- 16) 高倉修. 神経症圏治療における治療導入、摂食障害を例として:どこまで医療化(外在化)し、いかに本格治療に導入するのか 摂食障害の治療導入 一般病床を有する大学病院心療内科を受診した場合. 精神神経学雑誌. 特別号: 690, 2019.
- 17) 高倉修, 小牧元.【摂食障害の理解と対応】摂食障害の臨床現場における診断・治療の現状と課題. 公衆衛生. 83(10): 731-737, 2019.
- 18) 河合啓介. 摂食障害(拒食症・過食症)とその最近の治療 特集 摂食障害～心と体へのアプローチ Stress & Health Care No.233. 2-4 2019
- 19) 大迫鑑顕, 木村大, 中里道子.神経性過食症に対する遠隔認知行動療法の効果と汎用化への期待,精神科, (1347-4790)35 巻 2 号,2019 年,科学評論社.
- 20) 高倉修, 小牧元. 摂食障害の生きづらさ 摂食障害の精神病理 いかにして摂食障害が現れ、人々を虜にしたか 摂食障害の精神病理歴史と現在. こころの科学. 2020, 209, 18-24.
- 21) 河合啓介, 藤本晃嗣.「こころ」と「からだ」をつなぐものー最近の遺伝学や精神神経免疫学からの知見 臨床心理学 116 vol 20(2) 155-160 2020.3
- 22) 河合啓介, 藤本晃嗣, 杉山真也. 摂食障害の生きづらさー代謝調節異常・精神疾患として

摂食障害を考える-最新の遺伝子解析研究からこころの科学 vol209 38-41 2020

- 23) 小原千郷, トレーニング指導者に必要な摂食障害の知識 摂食障害の認知行動療法から学ぶ② 食行動の乱れを招く認知を変える, JATI EXPRESS、75, 40, 42,2020
- 24) 鈴木 真理, 小原 千郷, 摂食障害の生きづらさ 治療論の展開 巨大迷路からの脱出 生きづらさと家族会, 心の科学, 209, 89, 93, 2020
- 25) 西園マーハ 文, 小原 千郷, 鈴木 真理 【児童思春期の精神疾患患者の理解とケア】さまざまな精神疾患・状態の子ども 子どもの摂食障害の理解と治療, 小児看護, 43,1, 41-45.2020
- 26) 小原 千郷, 鈴木 真理[堀田], 西園マーハ 文, 末松 弘行, 鈴木 裕也, 山岡 昌之, 石川 俊男, 生野 照子 一般女性における摂食障害の認識調査 病名認知度と誤解・偏見, 心身医学 60(2) 162 - 172 2020
- 27) 河西 ひとみ, 関口 敦, 富田 吉敏, 船場 美佐子, 本田 暉, 樋上 巧洋, 藤井 靖, 安藤 哲也. 腸管ガスに関連する症状を主訴とする患者への認知行動療法の無効例から考える今後の研究の方向性. 心身医学 60(1): 50-57, 2020

2. 学会発表

(国内)

【2017 年度】

- 1) 波多伴和, 宮田典幸, 高倉修, 朝野泰成, 山下真, 鈴山千恵, 吉原一文, 須藤信行. 次世代シーケンサーによる神経性やせ症の腸内フローラ解析. 第 58 回日本心身医学会総会ならびに学術講演会. 2017 年 6 月 16 日, 札幌コンベンションセンター.
- 2) 高倉修, 鈴山千恵, 山下真, 波多伴和, 須藤信行. 神経性やせ症の罹病期間による病態の検討. 第 58 回日本心身医学会総会ならびに学術講演会. 2017 年 6 月 17 日, 札幌コンベンションセンター.
- 3) 山下真, 鈴山千恵, 波多伴和, 高倉修, 須藤信行. 神経性やせ症患者における基礎エネルギー

ギー消費量の推定. 第 58 回日本心身医学会総会ならびに学術講演会. 2017 年 6 月 16 日, 札幌コンベンションセンター.

- 4) 吉内一浩. 本邦における摂食障害患者に対する CBT-E 普及のために. (シンポジウム「本邦における摂食障害患者に対する CBT-E の可能性」) 第 58 回日本心身医学会総会 2017.6.16-17. (札幌)
- 5) 大谷真、三井知代、義田俊之、小牧元、吉内一浩. 日本語版 Eating Disorder Examination Questionnaire(EDE-Q)の摂食障害患者における信頼性・妥当性の検討. 第 58 回日本心身医学会総会 2017.6.16-17(札幌)
- 6) 堀江武、平出麻衣子、高倉修、波多伴和、稲田修士、大谷真、須藤信行、吉内一浩. 日本語版 Clinical Impairment Assessment questionnaire(CIA)の開発. 第 58 回日本心身医学会総会 2017.6.16-17 (札幌)
- 7) 平出麻衣子、堀江武、高倉修、波多伴和、稲田修士、大谷真、須藤信行、吉内一浩. 日本語版 Fear of Food Measures(FOFM)の信頼性・妥当性の検討. 第 58 回日本心身医学会総会 2017.6.16-17 (札幌)
- 8) 宮本せら紀、木田史彦、平出麻衣子、原島沙季、米田良、堀江武、稲田修士、大谷真、熊野宏昭、吉内一浩. 栄養療法の補助として CV ポートを造設した神経性やせ症の一例. 第 58 回日本心身医学会総会 2017.6.16-17 (札幌)
- 9) 木田史彦、宮本せら紀、堀江武、平出麻衣子、米田良、原島沙季、稲田修士、大谷真、吉内一浩. 神経性やせ症における入院後早期の栄養摂取と再栄養症候群の関連. 第 58 回日本心身医学会総会 2017.6.16-17 (札幌)
- 10) 高倉修『行動制限を用いた認知行動療法』の重要な柱と実際. 第 21 回日本摂食障害学会学術集会. 2017 年 10 月 21 日, 広島県医師会館.
- 11) 波多伴和、高倉修、北島智子、須藤信行. 摂食障害治療支援センター事業でみてきたものー福岡県の成果と課題ー. 第 21 回日本摂食障害学会学術集会. 2017 年 10 月 21 日, 広島

県医師会館.

- 12) 鈴山千恵、藤井悠子、野口敬蔵、高倉修、山下真、波多伴和、足立友理、富岡光直、須藤信行. 神経性過食症に対し心理士による CBT-E が奏功した 2 症例. 第 21 回日本摂食障害学会学術集会. 2017 年 10 月 21 日, 広島県医師会館.
- 13) 山下真、藤井悠子、鈴山千恵、波多伴和、高倉修、須藤信行. 行動制限の導入が治療転機となった神経性やせ症の小児例. 第 21 回日本摂食障害学会学術集会. 2017 年 10 月 22 日, 広島県医師会館.
- 14) 今村桜子、波多伴和、足立友理、鈴山千恵、山下真、高倉修、須藤信行. 回避・制限性食物摂取症との鑑別を要した神経性やせ症の 1 例. 第 21 回日本摂食障害学会学術集会. 2017 年 10 月 21 日, 広島県医師会館.
- 15) 大谷真、三井知代、義田俊之、小牧元、吉内一浩. 日本語版 Eating Disorders Quality of Life (ED-QOL) の摂食障害患者における信頼性・妥当性の検討. 第 21 回日本摂食障害学会学術集会 2017.10.21-22 (広島)
- 16) 山崎允宏、木田史彦、宮本せら紀、平出麻衣子、米田良、原島沙季、堀江武、稲田修士、大谷真、吉内一浩. 低体重を伴う摂食障害患者における再栄養症候群に関連する因子の検討. 第 21 回日本摂食障害学会学術集会 2017.10.21-22 (広島)
- 17) 野口敬蔵、鈴山千恵、高倉修、富岡光直、須藤信行. 神経性過食症患者への改良版認知行動療法(CBT-E)の試み. 第 22 回日本心療内科学会総会・学術大会. 2017 年 11 月 11 日, 国内.
- 18) 山崎允宏 稲田修士、大谷真、吉内一浩. Virtual Reality を用いた摂食障害に対する介入研究に関するシステマティックレビュー. 第 22 回日本心療内科学会総会・学術大会 2017.11.11-12 (鹿児島)
- 19) 野原伸展、稲田修士、大谷真、吉内一浩. 摂食障害関連 Ecological momentary interventions

に関するシステマティックレビュー. 第 22 回
日本心療内科学会総会・学術大会
2017.11.11-12 (鹿児島)

- 20) 山崎允宏 木田史彦、宮本せら紀、平出麻衣子、米田良、原島沙季、堀江武、稲田修士、大谷真、吉内一浩. 入院中の摂食障害患者における再栄養症候群のリスク因子についての検討. 第 24 回日本行動医学会学術総会
2017.12.1-2 (東京)
- 21) 高倉修. 摂食障害治療支援センターの歩みと新たな展開. 第 57 回日本心身医学会九州地方会. 2018 年 1 月 27 日, 城山観光ホテル.
- 22) 波多伴和, 鈴山千恵, 足立友理, 藤井悠子, 山下真, 高倉修, 須藤信行. 第 57 回日本心身医学会九州地方会. 回避・制限性食物摂取症が疑われた神経性やせ症の 1 例. 2018 年 1 月 27 日, タカクラホテル福岡.
- 23) 山下真, 藤井悠子, 鈴山千恵, 波多伴和, 高倉修, 須藤信行. 行動制限の導入が治療転機となった神経性やせ症の小児例. 第 57 回日本心身医学会九州地方会. 2018 年 1 月 27 日, タカクラホテル福岡.
- 24) 田縁洋子, 鈴山千恵, 山下真, 波多伴和, 高倉修, 須藤信行. キーワードによる外在化が治療に有効であった若年神経性やせ症の一例. 第 57 回日本心身医学会九州地方会. 2018 年 1 月 27 日, タカクラホテル福岡.
- 25) 鈴山千恵, 足立友理, 山下真, 波多伴和, 高倉修, 須藤信行. 発達障害の併存が疑われた若年神経性やせ症に対する治療の工夫. 第 57 回日本心身医学会九州地方会. 2018 年 1 月 27 日, タカクラホテル福岡.
- 26) 荒木久澄, 鈴山千恵, 山下真, 波多伴和, 高倉修, 須藤信行. 新たな気づきにより経過良好となった神経性やせ症遷延例. 第 57 回日本心身医学会九州地方会. 2018 年 1 月 27 日, タカクラホテル福岡.
- 27) 宮本せら紀、山中結加里、野原伸展、樋田紫子、山崎允宏、平出麻衣子、米田良、原島沙季、堀江武、稲田修士、大谷真、瀧本禎之、

吉内一浩. 日本語版 FCQ-ED 開発の計画. 第 129 回日本心身医学会関東地方会 2018.2.3 (東京)

- 28) 菅井千奈美, 大槻恵美子, 遠藤由香, 佐藤康弘, 福土審. 教育現場における摂食障害の理解と認知度. 第 86 回日本心身医学会東北地方会, 仙台, 02/24, 2018.
- 29) 町田知美, 町田貴胤, 庄司知隆, 遠藤由香, 福土審. 目標を治療終結 (完治) と明示したことが効果的だった神経性やせ症難治症例. 第 86 回日本心身医学会東北地方会, 仙台, 02/24, 2018.
- 30) 藤由彩香, 真室奈青, 金澤素, 福土審. 過敏性腸症候群(IRS)の病態に寄与する便中腸内細菌叢の解明. 第 86 回日本心身医学会東北地方会, 仙台, 02/24, 2018.

【2018 年度】

- 1) 山下 真, 鈴山千恵, 波多伴和, 高倉修, 須藤信行. 神経性やせ症患者における間接熱量計を用いた呼吸商の評価. 第 59 回日本心身医学会総会ならびに学術講演会. 2018 年 6 月 8~9 日, 名古屋国際会議場.
- 2) 鈴山千恵, 藤井悠子, 野口敬蔵, 高倉 修, 山下 真, 波多伴和, 足立友理, 富岡光直, 須藤信行心理士による原法に忠実な CBT-E が奏功した神経性過食症の 2 症例. 第 59 回日本心身医学会総会ならびに学術講演会. 2018 年 6 月 8~9 日, 名古屋国際会議場.
- 3) 波多伴和, 宮田典幸, 高倉 修, 朝野泰成, 吉原一文, 須藤信行. 神経性やせ症患者における腸内細菌と体重増加の関連: 人工菌叢マウスによる解析. 第 59 回日本心身医学会総会. 2018 年 6 月 8~9 日, 名古屋国際会議場.
- 4) 中里道子. シンポジウム, 摂食障害治療における学校との連携「学校における摂食障害の早期発見と早期支援の調査」, 第 59 回日本心身医学会, 2018 年 6 月 8 日, 名古屋国際会議場.
- 5) 河合啓介. シンポジウム 指定発言 我が国で CBT-E を実践する意義, 第 59 回日本心身医

学総会, 2018年6月, 名古屋

- 6) 平出麻衣子、吉内一浩. CBT-E が奏功した盗食歴を有する神経性やせ症の一例(シンポジウム「本邦における摂食障害治療のエビデンスの確立に向けて」). 第59回日本心身医学会総会. 2018.6.8-9(名古屋)
- 7) 安藤哲也. わが国における摂食障害治療の研究の展開. 自主シンポジウム3 本邦における摂食障害治療のエビデンスの確立に向けて. 第59回日本心身医学会総会. 2018年6月8~9日, 名古屋国際会議場.
- 8) 河西ひとみ, 関口敦, 富田吉敏, 船場美佐子, 本田暉, 樋上巧洋, 藤井靖, 安藤哲也. 腸管ガスに関連する症状を主訴とする患者への認知行動療法の無効例から考える今後の臨床研究の方向性. 第59回日本心身医学会総会ならびに学術講演会, 2018年6月8~9日, 名古屋国際会議場.
- 9) 中里道子. シンポジウム, 外来アノレキシア治療、次の一手: 最新エビデンスと、さらなる打開策を探る. 神経性やせ症に対する認知機能改善療法-脳リハビリテーションの応用可能性. Cognitive remediation therapy (CRT) for anorexia nervosa (AN), 第114回日本精神神経学会, 2018年6月21日, 神戸国際会議場.
- 10) 中里道子. シンポジウム, 外来過食症患者に対する低強度の認知行動療法-ガイドセルフヘルプ認知行動療法を用いて Guided self-help Cognitive Behavioral Therapy (CBT) for outpatients with bulimia nervosa 「摂食障害外来治療に関するマニュアル、ガイドラインとその活用について」, 第114回日本精神神経学会, 2018年6月23日, 神戸国際会議場.
- 11) 吉内一浩. 神経性やせ症患者に対する CBT-E のエビデンスと本邦での試み(シンポジウム「外来アノレキシア治療、次の一手: 最新エビデンスと、さらなる打開策を探る」). 第114回日本精神神経学会総会. 2018.6.21(神戸)
- 12) 公家里依, 横田綾乃, 森野百合, 中里道子. 思春期の神経性無食欲症を対象とした集団認知機能改善療法の有効性の検討-中間報告-. 第59回児童青年精神医学会総会, 2018年10月12日, 東京.
- 13) 沼田法子, 薛陸景, 清水栄司, 中里道子. 摂食障害患者における自閉症スペクトラム障害傾向の調査研究, 日本摂食障害学会, 2018年11月8日, 万国津梁館.
- 14) 河合啓介. シンポジウム CBT-E の診療報酬算定に関する解説 保険収載された治療法 CBT-E のエビデンス, 第22回日本摂食障害学会, 2018年11月, 沖縄
- 15) 高倉修. 実践! CBT-E の実際とアート. 第22回日本摂食障害学会学術集会. 2018年11月8~9日, 万国津梁館.
- 16) 波多伴和. 摂食障害治療支援センター設置運営事業の今後の展開. 第22回日本摂食障害学会学術集会. 2018年11月8~9日, 万国津梁館.
- 17) 山下真, 藤本晃嗣, 戸田健太, 麻生千恵, 波多伴和, 高倉修, 須藤信行. 長年の家族葛藤の解消により回復が得られた神経性やせ症の一例. 第22回日本摂食障害学会学術集会, 2018年11月8~9日, 万国津梁館.
- 18) 戸田健太, 波多伴和, 麻生千恵, 穴井学, 山下真, 高倉修, 須藤信行. 様々な身体合併症を呈した神経性やせ症の一治療例. 第22回日本摂食障害学会学術集会, 2018年11月8~9日, 万国津梁館.
- 19) 麻生千恵, 藤井悠子, 足立友理, 西雅美, 戸田健太, 山下真, 波多伴和, 高倉修, 須藤信行. 若年発症の神経性やせ症に対する治療の工夫. 第22回日本摂食障害学会学術集会. 2018年11月8~9日, 日本摂食障害学会, 万国津梁館.
- 20) 菅原彩子, 小原千郷, 関口敦, 安藤哲也, 鈴木真理. 日本の一般女性のやせやダイエットに伴う健康障害の認識度の検討. 第22回日本摂食障害学会学術集会, 2018年11月8~9日, 日本摂食障害学会, 万国津梁館.
- 21) 安藤哲也. 摂食障害治療支援センター設置運営事業の今後の展開. 第22回日本摂食障害学

会学術集会, 2018 年 11 月 8~9 日, 日本摂食障害学会, 万国津梁館.

- 22) 小原千郷, インストラクションシリーズ 家族心理教育のエビデンス- ミニマルエッセンシャルズ 日本における家族心理教育のエビデンスと実情. 第 22 回日本摂食障害学会学術集会, 2018 年 11 月 8~9 日, 日本摂食障害学会, 万国津梁館.
- 23) 小原千郷, 北島智子, 高倉 修, 竹林淳和, 栗田大輔, 阿部麻衣, 遠藤由香, 河合啓介, 安藤哲也. 摂食障害治療支援センターへの相談事例からみた、患者と家族が抱く医療への不満・要望. 第 22 回日本摂食障害学会学術集会, 2018 年 11 月 8~9 日, 日本摂食障害学会, 万国津梁館.
- 24) 山中結加里, 堀江武, 大谷真, 吉内一浩. 低体重を伴う高齢摂食障害患者の臨床的特徴. 第 23 回日本心療内科学会総会. 2018.11.23 (札幌)
- 25) 山下 真, 藤本晃嗣, 戸田健太, 麻生千恵, 波多伴和, 高倉 修, 須藤信行. 母子葛藤の解消が転機となり、遷延した神経性やせ症から回復が得られた一例. 第 58 回日本心身医学会九州地方会, 2019 年 1 月 26~27 日, 鹿児島県医師会館.
- 26) 戸田健太, 波多伴和, 麻生千恵, 穴井学, 山下 真, 高倉 修, 須藤信行. 身体管理を通じた病態理解の共有が治療意欲向上につながった神経性やせ症の一例. 第 58 回日本心身医学会九州地方会. 2019 年 1 月 26~27 日, 鹿児島県医師会館.

【2019 年度】

- 1) 安藤哲也 摂食障害の認知行動療法「改良版」(CBT-E), 第 115 回日本精神神経学会学術総会, 2019/6/20~22
- 2) 安藤哲也 摂食障害の認知行動療法「改良版」(CBT-E), 第 115 回日本精神神経学会学術総会, 2019/6/20~22, 新潟
- 3) 細田豊, 大溪俊幸, 花澤寿, 田中麻未, 橋本佐, 中里道子, 伊豫雅臣. 青年期における日本語版

摂食障害簡易スクリーニング検査 SCOFF の有用性についての検討, 第 115 回日本精神神経学会, 国内ポスター, 2019 年 6 月 20 日, 新潟コンベンションセンター.

- 4) 高倉修. 神経症圏治療における治療導入、摂食障害を例として：どこまで医療化（外在化）し、いかに本格治療に導入するのか. 第 115 回日本精神神経学会学術総会. 2019 年 6 月 20 日~22 日, 朱鷺メッセ.
- 5) 河合啓介. シンポジウム 摂食障害の栄養療法 摂食障害の心理教育に役立つコンテンツ □ミニマムエッセンシャルズ, 第 115 回日本精神神経学会, 2019 年 6 月, 新潟
- 6) 河合啓介. 教育講演 摂食障害への認知行動療法, 第 19 回日本認知療法・行動療法学会, 2019 年 8 月, 東京
- 7) 波多伴和, 吉原一文, 須藤信行. 神経性やせ症患者の腸内細菌異常は体重増加不良と行動異常を惹起する：腸内細菌移植マウスを用いた研究. 第 35 回日本ストレス学会学術総会. 2019 年 10 月 26 日・27 日, アクロス福岡.
- 8) 中里道子. 摂食障害の動機づけについて. 第 23 回日本摂食障害学会学術集会, 2019 年 11 月 2 日, 国立精神・神経医療研究センターユニバーサルホール.
- 9) 高倉修. 摂食障害に対する認知行動療法 (CBT-E) 概説. 第 23 回日本摂食障害学会学術集会. 2019 年 11 月 2 日, 国立精神・神経医療研究センターユニバーサルホール.
- 10) 山下真. 高齢摂食障害患者を支える心理的アプローチ. 第 23 回日本摂食障害学会学術集会. 2019 年 11 月 2 日, 国立精神・神経医療研究センターユニバーサルホール.
- 11) 波多伴和. 神経性やせ症患者の腸内細菌異常は体重増加不良と行動異常の発現に関与する：腸内細菌移植マウスを用いた研究. 第 23 回日本摂食障害学会学術集会. 2019 年 11 月 2 日・3 日, 国立精神・神経医療研究センターユニバーサルホール.
- 12) 山崎允宏, 宮本せら紀, 米田良, 原島沙季,

- 荻野恵、堀江武、稲田修士、大谷真、吉内一浩. 成人摂食障害患者における再栄養時の低リン血症に対する BMI カットオフ値の検討. 第 23 回日本摂食障害学会学術集会. 2019.11.2 (東京)
- 13) 山中結加里、堀江武、大谷真、吉内 一浩. 高齢摂食障害患者の特徴(シンポジウム「高齢摂食障害患者を支える」). 第 23 回日本摂食障害学会学術集会 2019.11.2 (東京)
- 14) 関口敦、守口善也、佐藤康弘、平野好幸、吉内一浩、磯部昌憲、兒玉直樹、吉原一文、安藤哲也. 摂食障害に対する認知行動療法の有効性の神経科学的エビデンスの創出. 第 23 回日本摂食障害学会学術集会, 東京, 2019/11/2
- 15) 安藤哲也 摂食障害の医療の課題 第 23 回日本摂食障害学会学術集会, 2019/11/2、東京
- 16) 小原 千郷 CBT-E の実践と臨床的課題~ケースの検討を通じて~ イニシャルケースでの戸惑い 第 23 回日本摂食障害学会学術集会 東京 2019/11/2、東京
- 17) 関口敦 脳画像研究で検証する中枢神経感作病態. シンポジウム 6「中枢神経感作病態としての心身相関」第 2 回日本心身医学関連学会合同集会, 2019 年 11 月 15~17 日, 大阪市中央公会堂
- 18) 福土審 中枢神経感作病態における心身相関. シンポジウム 6「中枢神経感作病態としての心身相関」第 2 回日本心身医学関連学会合同集会, 2019 年 11 月 15~17 日, 大阪市中央公会堂
- 19) 船場美佐子, 河西ひとみ, 藤井靖, 樋上巧洋, 富田吉敏, 関口敦, 安藤哲也. 過敏性腸症候群に対する内部感覚曝露を用いた認知行動療法の実施可能性の検討—ビデオ教材を併用して—. 第 2 回日本心身医学関連学会合同集会, 2019 年 11 月 15~17 日, 大阪市中央公会堂
- 20) 富田吉敏, 河西ひとみ, 船場美佐子, 安藤哲也. 過敏性腸症候群において慢性膵炎など別病態の混在の可能性について. 第 2 回日本心身医学関連学会合同集会, 2019 年 11 月 15~17 日, 大阪市中央公会堂
- 21) 河西ひとみ, 関口敦, 船場美佐子, 富田吉敏, 菅原典夫, 安藤哲也. 過敏性腸症候群様症状と自己臭恐怖の併存例を対象としたインターネットによる実態調査. 第 2 回日本心身医学関連学会合同集会, 2019 年 11 月 15~17 日, 大阪市中央公会堂
- 22) 山下真, 戸田健太, 麻生千恵, 波多伴和, 高倉修, 須藤信行. 神経性やせ症患者における窒素出納の検討. 第 2 回日本心身医学関連学会合同集会. 2019 年 11 月 15 日~17 日, 大阪市中央公会堂.
- 23) 波多伴和, 宮田典幸, 高倉修, 吉原一文, 須藤信行. 神経性やせ症患者の腸内細菌異常は体重増加不良と行動異常を引き起こす: 腸内細菌移植マウスを用いた研究. 第 2 回日本心身医学関連学会合同集会. 2019 年 11 月 15 日, 大阪市中央公会堂.
- 24) 河合啓介. 教育講演 摂食障害の最新治療, 第 2 回日本心身医学会関連合同学会, 2019 年 11 月, 大阪
- 25) 宮本せら紀、小林晃、山中結加里、野原伸展、樋田紫子、山崎允宏、平出麻衣子、原島沙季、米田良、荻野恵、堀江武、大谷真、吉内一浩. 摂食障害患者に対する父母の対処法の違い—日本語版 FCQ-ED を用いて—. 第 2 回心身医学関連学会合同集会 2019.11.16 (大阪)
- 26) 野原伸展、堀江 武、大谷 真、吉内一浩. 短期間入院における、オペラント条件づけ行動療法プログラムの体重回復への効果について. 第 2 回心身医学関連合同集会 2019.11.16 (大阪)
- 27) 山中結加里、堀江武、大谷真、吉内 一浩. 高齢摂食障害患者の臨床的特徴: 非高齢患者との比較. 第 2 回心身医学関連学会合同集会 2019.11.15 (大阪)
- 28) 平野好幸, 濱谷沙世. 神経性過食症のう美味認知と遠隔認知行動療法アプローチ. 第 7 回心身医学のニューロサイエンス研究会, 2019 年 11 月 23 日, 九州大学病院.
- 29) 山下真, 戸田健太, 麻生千恵, 波多伴和, 高

倉修, 須藤信行. 高齢神経性やせ症の1例.

第59回日本心身医学会九州地方会. 2020年2月8日・9日, 九州大学医学部百年講堂.

- 30) 戸田健太, 藤田曜成, 麻生千恵, 山下真, 波多伴和, 高倉修, 須藤信行. 理学療法入により治療意欲が向上した高齢の神経性やせ症の症例. 第59回日本心身医学会九州地方会 2020年2月8日・9日, 九州大学医学部百年講堂.
- 31) 高倉修, 麻生千恵, 戸田健太, 山下真, 波多伴和, 須藤信行. 神経性やせ症の罹病期間による身体的・心理的特徴の検討. 第59回日本心身医学会九州地方会, 2020年2月8日・9日, 九州大学医学部百年講堂.
- 32) 末松孝文, 高倉修, 戸田健太, 麻生千恵, 山下真, 波多伴和, 須藤信行. 食物アレルギーへの過度な恐怖を伴う回避・制限性植物摂取症の一例. 第59回日本心身医学会九州地方会. 2020年2月8日・9日, 九州大学医学部百年講堂.
- 33) 波多伴和, 山下真, 麻生千恵, 戸田健太, 高倉修, 須藤信行. マインドフルネス・スキルトレーニングにより過食症状が改善し、透析導入を延期できた2型糖尿病の1例. 第59回日本心身医学会九州地方会. 2020年2月8日・9日, 九州大学医学部百年講堂.
- 34) 張雪廷, 吉原一文, 波多伴和, 宮田典幸, 朝野泰成, アルタイサイハン・アルタンツル, 須藤信行. アミノ酸欠乏がマウスの体重増加や行動に与える影響. 第59回日本心身医学会九州地方会. 2020年2月8日・9日, 九州大学医学部百年講堂.
- 35) 山崎允宏, 小林晃, 山中結加里, 野原伸展, 樋田紫子, 宮本せら紀, 平出麻衣子, 米田良, 原島沙季, 荻野恵, 堀江武, 大谷真, 吉内一浩. 日本語版 Body Checking Questionnaire (BCQ-J)の開発. 第131回日本心身医学会関東地方会 2020.2.8-9 (東京)

(国際学会)

【2017 年度】

- 1) Gondo M, Kawai K, Moriguchi Y, Hiwatashi A, Takakura S, Yoshihara K, Morita C, Yamashita M, Eto S, Sudo N. Altered default mode network following an integrated hospital treatment for anorexia nervosa 24th World Congress of the International College of Psychosomatic Medicine(ICPM), Beijing, 2017/9/13-16.
- 2) Yamazaki T, Miyamoto S, Hiraide M, Yoneda R, Harashima S, Horie T, Inada S, Otani M, Yoshiuchi K. Risk factors for refeeding syndrome in underweight Japanese patients with eating disorders: possible influence of mood states. 76th Annual Scientific Meeting of the American Psychosomatic Society 2018.3.10 (Louisville, USA)

【2018 年度】

- 1) Takamura A, Yamazaki Y, Omori M, Kikuchi H, Nakamura T, Yoshiuchi K, Yamamoto Y. An EMA investigation of situational cues responsible for fat talk in Japanese women. 32nd Annual Conference of the European Health Psychology Society (Galway, August 21-25, 2018)
- 2) Yamazaki T, Miyamoto S, Hiraide M, Yoneda R, Harashima S, Horie T, Inada S, Otani M, Yoshiuchi K. Proposal of BMI cut-off point for refeeding syndrome in Japanese eating disorder patients. The 18th Congress of the Asian College of Psychosomatic Medicine 2018.8.24-26 (Seoul, South Korea)
- 3) Nakazato M, Setsu R, Asano K, Numata N, Tanaka M, Ibuki H, Yamamoto T, Uragami R, Matsumoto J, Hirano Y, Iyo M, Shimizu E. A single-arm pilot study of guided self-help treatment based cognitive behavioral therapy for bulimia nervosa in Japan. Eating Disorders Research Society (EDRS), Sydney, 2018/10/26

【2019 年度】

- 1) Shin Fukudo. Gut microbiota and brain-gut interactions in irritable bowel syndrome. The Brain-Gut Axis: The Cutting Edge. Room 1, Toki Messe, Niigata, Neuro 2019. The 42nd Annual Meeting of the Japan Neuroscience Society, 16:30 PM to 18:30 PM, July 27, 2019.
 - 2) Nakazato M, Development of online check-up system of eating problems and self-help program for bulimia nervosa and binge eating disorders. 2019 International Congress in Obesity and Metabolic Syndrome& Asia-Oceania Conference in Obesity, Symposium10, Conrad Hotel, Seoul, Korea. 2019/8/31.
 - 3) Takakura S. Changing care settings related to eating disorders in Japan. 25th World Congress of the International College of Psychosomatic Medicine(ICPM), Florence, 2019/9/11-13.
 - 4) Yoshiuchi K. Using short-term inpatient settings modifying the multistep CBT-E to introduce CBT-E smoothly for eating disorder patients in Japan (Symposium "Treatment of patients with eating disorders using CBT-E/CBT-OB in the real world settings in Japan and Italy"). 25th World Congress of Psychosomatic Medicine. 2019.9.13 (Florence, Italy)
 - 5) Miyamoto, S, Yamazaki T, Harashima S, Kobayashi A, Koga A, Yamanaka Y, Nohara N, Hida Y, Hiraide M, Yoneda R, Moriya J, Horie T, Otani M, Yoshiuchi K : Japanese version of Family Coping Questionnaire for Eating. 25th World Congress of Psychosomatic Medicine. 2019.9.11 (Florence, Italy)
 - 6) Gondo M, Kawai K, Moriguchi Y, Hiwatashi A, Takakura S, Yoshihara K, Morita C, Yamashita M, Eto S, Sudo N. The effects of integrated hospital treatment for anorexia nervosa : a longitudinal resting state functional MRI study. 25th World Congress of the International College of Psychosomatic Medicine(ICPM), Florence, 2019/9/11-13.
 - 7) Misako Funaba, Hitomi Kawanishi, Yasushi Fujii, Koyo Higami, Yoshitoshi Tomita, Atsushi Sekiguchi, Tetsuya Ando. The feasibility and effectiveness of cognitive-behavioral therapy using interoceptive exposure with psychoeducational video for irritable bowel syndrome. The 77th Annual Meeting of the American Psychosomatic Society, Vancouver, 2019/3/6-9.
 - 8) Hitomi Kawanishi, Atsushi Sekiguchi, Misako Funaba, Yoshitoshi Tomita, Norio Sugawara, Motoyori Kanazawa, Shin Fukudo, Tetsuya Ando : Clinical features of olfactory reference syndrome with irritable bowel syndrome-like symptoms: An internet-based study. American Psychosomatic Society. March, 2020, Longbeach, USA. Conference canceled.
 - 9) Misako Funaba, Hitomi Kawanishi, Yasushi Fujii, Koyo Higami, Yoshitoshi Tomita, Atsushi Sekiguchi, Tetsuya Ando: Predictors of response to interoceptive exposure-based cognitive-behavioral therapy (CBT-IE) in irritable bowel syndrome patients in Japan. American Psychosomatic Society. March, 2020, Longbeach, USA. Conference canceled.
3. 書籍
- 【2017 年度】
- 該当なし
- 【2018 年度】
- 1) 薛 陸景, 中里 道子. 第 5 章 疾患・問題別の専門技法, 摂食障害の認知行動療法. 「公認心理士技法ガイド」, 2018 年, 文光堂.
 - 2) 中里道子. 11 章 周産期における境界性パーソナリティ障害と摂食障害, 摂食障害. 「妊婦の精神疾患と向精神薬 1 版」. Megan Galbally, Martien Snellen, Andrew Lewis 著, 岡野禎治, 鈴木利人, 渡邊央美監訳. 2018 年 5 月, 南山堂.
 - 3) 中里道子. 今日の治療指針, 「成人の摂食障害の

治療指針」,2018 年,医学書院.

- 4) 中里道子.食行動障害および摂食障害群. 新体系看護学全書 精神看護学.岩崎弥生,渡邊博幸(編),2018 年,メヂカルフレンド社.

【2019 年度】

該当なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定も含む)

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし